

**本年も課題の前進に
向けて創意工夫を**

新年あけまして

おめでとうございます。



あらためて昨年を振り返れば、局署等の皆さまには、ふれあいの森等における森づくり活動をはじめ、森林体験活動や森林環境教育、シカ害等対策を含めた技術開発、民有林との連携、森林総合監理士等の育成、緑の募金など幅広くご協力頂きありがとうございました。

進むべき

方向に沿って

今年も局署等には様々な課題がありますが、国有林野事業の進むべき方向性については既に示されています。それらの方向に沿って局署等が連携して、創意工夫を凝らしながら日々取組を進めて参りたいと考えますので、本年もご支援・ご協力よろしくお願致します。

技術普及課 一同



「四国森林・林業研究発表会」

1月23日 開催

「四国森林・林業研究発表会」を、平成30年1月23日（火）に局大会議室・研修室（WEB中継2階会議室）で開催します。発表課題は23課題、うち局署等から下記の9課題（発表順）。

- ・一貫作業システム（一括発注）における低コスト化への取り組みについて（嶺北署）
- ・繊維ロープを使用した集材研修会後の検証について（四万十署）
- ・活動中の大規模地すべりにおける初期調査ー祖谷川地区西山地区すべりー（徳島署）
- ・電気柵等の検証結果について（高知中部署）
- ・飯野山<讃岐富士>の市民参加による登山道整備ー一日一石運動ー（香川所）
- ・森林官による地域活動についてー小田を任せ、小田に意気るー（愛媛署）
- ・再造林地でのノウサギ食害対策について（経過報告）（森林技術・支援センター）
- ・くくり罠を用いたシカの効率的な捕獲方法の検証（安芸署）
- ・ニホンシカの被害対策とドローンを活用した鹿防護網の見回り（四万十署）



「バイオミメティクス」 （生物模倣）って

「バイオミメティクス」（生物模倣）という言葉を目にしたことがありますか。古くはレオナルド・ダ・ヴィンチにまで遡ります。

彼が鳥の飛翔メカニズムを基に、様々な飛行機械を設計したことは有名。

また、1935年に発明されたナイロンはカイコが作り出す絹糸を模したものです。500系新幹線がトンネルに入る時の騒音を減らすために、先端がカワセミのくちばしの形状になっていることも。これらは、その形状・物質が意味する物理的・化学的な仕組みを解明して、利用していくことがポイント。



最近話題のドローンの飛び方も、ハチドリ（写真）をまねたもの。

近年、バイオミメティクスを建築物や街づくりに利用できないか期待されている。ビルを例に、空調システムを蟻塚の構造に、外壁はカタツムリの殻のように汚れを付きにくくするなど技術の利用が可能。

どのようにすれば地球に環境負荷をあまり掛けずに生活できるのか。その手本が生物なのです。

（バイオミメティクスの本 下村政嗣著より）

編集後記

平成30年明けました。

寒さの中にも、木々の冬芽は伸びています。

春に備え、少しずつ自分の冬芽と体調管理を。